

JAC創立100周年記念国内登山(中央分水嶺踏査)の山行報告書

(1)~(8)は必ず記入してください。(9)~(11)は、気づいた事項があれば記入してください。

(1) 担当支部:	福井支部	(2) 記載者氏名:	大和 康郎	会員番号:	13872	事務局整理記入欄	福井 - 22
分水嶺区分	W108美濃俣丸 ~ W107笹ヶ峰(壁小屋丸) ~ P1169	(3) 山行日:	2005年	4月	14日	(4) 天候:	快晴

(5) 参加者氏名および会員番号

サポート要員氏名および会員番号

牧田 正弘	13784						
田路 繁男	13086						
大和 康郎	13872						
		計	3名		計	0名	

(6) 山行記録・位置確認(出発点・ピーク・峠・到達点など、主要ポイントに関して)・所要時間・道の状況

コース概略:	美濃俣丸 ~ 笹ヶ峰に行き、さらに北上して前回(2005年4月2日: 山行報告書 福井 - 21)の壁小屋丸P1169に行く。さらに北上して天草山方面の尾根に入る為、分水嶺を離脱する。												
アプローチ:	広野ダム北岸を車で移動する。赤谷山南部の高谷池経由で降下するので、降下点に駐車し、そこから湖岸を歩いて鈴谷林道に入り、鈴谷ダムを通り、美濃俣丸へ向かう尾根に取り付き美濃俣丸に行く。分水嶺を離脱後、天草山を通過し、尾根筋が積雪が無くなったので、林道に降下して時間を短縮する。林道が大きく迂回しているため、高谷ヶ池より尾根越して下の林道に出る。後は林道を降り、駐車場の所へ戻る。												
地点コード	地点名	2.5万分の1 地形図名	経度E			緯度N			高度 m	到着 時刻	出発 時刻	道の 状況	(8)~(11)の特記 事項等との関係
			度	分	秒	度	分	秒					
歩行開始点	広野ダム北岸の駐車位置		136	16	16.0	35	43	13.5	326.0				
	尾根取り付き点		136	17	1.8	35	42	44.0	386.7	30分		林道	
分水嶺到達点W108	美濃俣丸		136	18	37.3	35	42	25.1	1,247.6	2時間40分		B-2 + 積雪	
	大河内山P1288		136	19	26.3	35	43	0.6	1,282.3	55分		B-2 + 積雪	
	口ボット(通称)		136	19	13.3	35	43	22.3	1,284.4	10分		B-2 + 積雪	
	夏小屋丸P1294		136	19	29.2	35	43	38.5	1,284.0	30分		B-2 + 積雪	
W107	笹ヶ峰		136	19	33.6	35	44	4.4	1,275.5	27分		B-2 + 積雪	
	壁小屋丸P1169		136	19	30.5	35	44	41.3	1,159.7	40分		B-2 + 積雪	
分水嶺離別点			136	19	6.2	35	45	4.4	980.2	25分		B-2 + 積雪	
	天草山		136	17	54.0	35	45	3.9	850.4	1時間15分		B-2 + 積雪	
	林道に降下点		136	17	8.6	35	44	55.4	774.0	50分		B-2	
	高谷ヶ池(林道離脱)		136	16	31.8	35	44	9.2	713.0	1時間47分		林道 + 積雪	
	林道に降下		136	16	26.7	35	43	55.7	574.3	38分		B-2	
歩行終了点	駐車位置		136	16	16.0	35	43	13.5	326.0	25分		林道 + 積雪	
総歩行時間(休憩時間を除く):												11時間12分	
総所要時間												12時間35分	

(7) 三角点の位置と保存状況

上記(6)の地点コードを記入してください	点名	等級	方位	保存状況	特記事項
W108	美濃俣	3	南	良好	昨日か今日に三角点が頭を出した状態。
W107	長所				積雪のため確認できず。

(8) 人工施設の現況および地形図との相違点


(9) 水および植生に関連した特記事項

分水嶺の尾根筋は融雪が進み、笹(もしくは雑木)・美濃俣丸 ~ 壁小屋丸は笹・他の尾根筋はブナ等の雑木が生えて来ている所が多くなり、数漕ぎを強いられる所が有る。特に口ボットの頂は笹が繁茂している。
高谷ヶ池まで尾根を行く予定であったが、数漕ぎになり、時間短縮の為、林道に降下した。
高谷ヶ池より林道が大きく迂回しているため、時間短縮の為、尾根越えをして杉林内を降下し下の林道に出た。
林道沿いには杉が植林されている。杉の手入れは良いとは思えない。

(10) その他の特記事項

分水嶺を離脱して100m程下った当たりで強度の雑木帯に突入した。先行者は先日これを登っているのうまかわっていた。水平に移動してから降下して、やっとかわす事が出来た。下からこれを見ると、大きな岩の上に雑木が生えている状態である。
林道に降りたものの、林道は積雪状態であった以上に時間が掛かり、疲労感があった。
又赤谷山付近の辺りまで登り勾配であったので余計そのように感じたのかもしれない。
林道には京都ナンバーの乗用車が1台放置されていた。その下の林道に崩落がある。閉じ込められたのは雪か?、崩落か?

(11) 写真の添付:( 有りの場合には、写真説明を記入してください)

写真説明: ・ 笹ヶ峰にて(分水嶺の金草岳・冠山の後方に部子山・銀杏峰、その後方に白山・別山が見える)

山行報告書(続き)

表面(1ページ目)に書ききれなかった事項を記入してください。



笹ヶ峰にて(分水嶺の金草岳・冠山の後方に部子山・銀杏峰、その後方に白山・別山が見える)